

Katsuta-OB Times

茨城県立勝田高等学校会報 通算9号

2019年7月発行

会長挨拶

第4代同窓会会長
元勝田高等学校PTA会長
黒澤 敦（第5回生）



第6回勝田高校同窓会総会に際して

本年も、このように多くの同窓生の皆様にご参加をいただき、7回目となります勝田高校同窓会総会が開催できますことを、心より嬉しく思います。さる3月1日には第44回となる卒業式が母校にて行われ勝田高校の卒業生であると言う新たな私たちの仲間がそれぞれの進路へと踏み出しました。すでに約10,000名をこえる勝田高校の同窓生ですが、地域社会におきまして色々な場で活躍されております。現在の勝田高校には5人のOBが先生として母校の生徒を指導されています。

また地元のひたちなか市役所には100名の歴代の卒業生が勤務されており、市議会にも二人の卒業生が議員として活動しております。

さらには、昨年1月に茨城県警察本部、勝田高校OB会「銀杏会」が発足され、120名もの卒業生が県内の安全、安心のために活躍されております。

また、民間企業においても多くの卒業生がお互いに連絡を取り合いながら、ネットワークを広げています。

この、勝田高校の卒業生であると言うひとつの共通項をもとに、互の親睦を深め発展させ、さらには、地域社会へ貢献することが同窓会の大きな役割ではないかと考えております。

本日の総会には、地元茨城県のみならず周辺都県から多くの卒業生や恩師の先生方にご参加いただきました。

また、今総会の開催にあたりまして、勝田高校の卒業生はもちろんのこと、同窓会を盛り上げようと年齢に関係なく熱い心を持った方々が集まり、話し合い、時には意見をぶつけ合いながら準備を進めてまいりました。

彼らの熱意と行動力と先輩を先輩とも思わない図々しさが無かったら、このような総会は開催できなかったかもしれません。心から感謝いたします。

今後も、同窓会の親睦のため、母校の発展のため、そして何よりも今勝田高校で学ぶ生徒たちのためにも尽力してまいりますので、同窓会活動に関しまして、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校長挨拶

茨城県立
勝田高等学校長
澤畑 保男



同窓会員の皆様には、平素より本校教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この1年間を振り返りまして、ウダーベ音楽祭を始め、これほど活発に活動している同窓会はありません。私としても誇りとするところでございます。昨年度は、皆様のすばらしい活動をさらに多くの方々にお伝えできるよう、学校ホームページからも同窓会ホームページにリンクできるようにいたしました。今後は、校内に同窓会掲示板の場所を確保して、在校生や来客の方々にも同窓会の活動をお伝えしたいと考えております。

さて、新聞等でも報道されましたように本校は2年後の令和3年度に中等教育学校を開設し、令和8年度に完成年度を迎えます。中学1年(1年

次)から高校3年(6年次)まで各学年3クラスとなり、高校入試はなくなります。それに伴い、現在の勝田高等学校は段階的に3クラスの募集となり、令和6年度に募集停止となる予定です。勝田高等学校の最後の一人まで、従来どおりきめ細かく丁寧で熱心な指導を継続してまいる所存です。

また、新たな中等教育学校につきましては、同窓会の皆様からご意見をいただきながら、卒業生が築き上げてきた歴史と伝統をしっかりと守り、6年間の継続的な指導ができる利点を最大限に生かして、地域に根ざした様々な特色ある教育活動を展開してまいります。中等教育学校となりまして、本校は同窓会の皆様にとって「いつでも帰れる場所」であり、「心の居場所」として存在し続けますのでご安心ください。

今後とも、同窓会の皆様とともに新たな中等教育学校づくりを進め、勝田高等学校同窓会を新たな中等教育学校の同窓会へと継続発展させていけるよう、同窓会の皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。今後とも、同窓会の皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学校内幹事挨拶

現職英語教員

大内 祐輔（第27回生）



平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、深く感謝致しております。誠にありがとうございます。

「英語教師になろう」
そう決意した大学2年のあの春の日から、
「いつかは母校の教壇に立ちたい」と強く願っていました。その願いが叶い、今こうして母校の教壇に立って、大好きな英語を我が後輩たちに教えることができるとは、何という幸福なことでしょうか。幸せ過ぎて、時に

怖くなってしまう程です。

友人と激論（専ら、好みの音楽の話）を交わしたあの教室も、勝利を目指しチームメイトと共に汗を流したあの体育館も、そして長く辛い受験勉強を支えてくれたあの学習館も、当時と何ら変わることのない雰囲気を感じながら、長い年月の末に先祖帰りを果たした私を迎え入れてくれました。（もちろん、各設備はグレードアップされていましたが。）勝田高校、そしてその勝田高校の教育活動を根底から支えてくださったOBの皆様方、お世話になり通しだった恩師の方々には「感謝」の言葉以外見当たりません。

担任を務めるクラスの生徒たちによく話すことがあります。それは、「日本の未来は君たちが創る」ということです。不遜な言い方かもしれないけれども、本校の卒業生としても、現在進行形で生徒たちを預かる一教師としても、私は心底そう思っています。事実、彼らには無限の可能性があります。真摯に学習に臨む姿勢、クラスマッチや文化祭でクラスメイトと共に協働して目標を達成しようとする姿には感動すら憶えます。

だからこそ、そんな生徒たちの無限の可能性を更に広げ、彼らの希望や夢を具現化させていくためにも、我々教員が常日頃から全身からエナジーを発し続けて生徒たちを感化させる存在でなければと思っています。OBとしても、一教師としても、生徒たちに憧れられるような背中を見せなければと思うのです。

今後もOBの皆様方のご支援とご協力を賜り、共に後輩たちの笑顔と夢が輝く母校を創っていくことができれば、これに勝る幸せはありません。ご協力よろしくお願い致します。

*肖像画は、現勝田高校3年生：松本はなさんが描いてくれたものです。

P T A会長挨拶

P T A会長 牛木洋一



本年度P T A会長を務めさせていただきます、牛

木洋一と申します。昨年度は書記を担当しておりましたが初めての大会に責任の重さと同時に新鮮さを感じております。

近年、大学入試制度改正・成人年齢引き下げ等、目まぐるしく変化する社会環境の中でP T Aの果たす役割は益々大きくなっています。保護者と先生方の連携・協力・信頼関係を深め合い子どもたちが健全に成長し安全な学校生活を送れるよう家庭と学校のつなぎ役として微力ながら精一杯努力します。

私が本校同窓会に感じたことは2つあり、まず固い団結力と強い愛校心です。定期的な同窓・同期会の開催、熱烈な野球応援、卒業生によるキャリア教育授業等、その活動の活発さに大変驚きました。

また、進路実績が素晴らしく難関大学等への進学率もですがひたちなか市役所・茨城県警に多数の方が勤務されており、他にも官民間問わず地域貢献・社会貢献に活躍されていることです。このような素晴らしい学校に親子でお世話になることが出来、たいへん誇りに思います。

至らない点も多々あるかと思いますが本校発展のために頑張りますので今後とも同窓会の皆様のP T Aへのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

同窓会に寄せて

銀杏会会長

茨城県警察本部内勝田高等学校同窓生の会

茨城県警察本部交通部長

警視正 田中 忠義 (第3回生)

第7回、勝田高校同窓会総会の開催、誠にありがとうございます

私は、昭和50年に第3回生として入学しましたので、早いものでそれから44年が経過しようとしています。現在、茨城県の交通安全に携わっておりますが、来春には定年退職予定であり、最後の1年、心残りの無いようしっかりと勤務して締めくくりたいと思っております。

さて、茨城県の交通事故情勢ですが、昨年の死者数は122人と昭和33年以降最少となりましたが、まだまだ高齢者の交通事故や児童生徒が被害に遭う交通事故等が発生しており。依然として厳しい情勢にあります。また、茨城県人の気質からか、直進車の直前を右折するいわゆる「茨城ダッシュ」という危険な走行方法の横行や、歩行者のいる信号機のない横断歩道での停車率が全国的にも低い10%以下という、ドライバーの資質そのものが問われるなど、問題も山積しております。

交通事故は、起こしても起こされても悲劇であり、1件でも減少させるのが私の使命であると痛感しているところであります。

幸い、勝田高校を卒業し、県内の安全安心を守ろうと、志を同じくして、本県警察に奉職した卒業生が、昭和・平成・令和と三つの時代を通して現在120人在職し、勤務の折心強さを感じているところであります。一昨年には、茨城県警察勝田高校08会「銀杏会」を立ち上げており、今後ともこの「銀杏会」を核として、勝田高校卒業生が一致団結して、県内の交通安全のみならず治安維持のため努力して参りたいと考えておりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。結びに、母校と同窓会の御発展と卒業生の皆様の益々の御活躍を御祈念申し上げます。



同窓会入会式 毎年2月28日開催

お知らせ

大好評の親睦列車。ご家族でどうぞ 今年は**9月14日**です！

地元ひたちなか海浜鉄道を一両貸切って、走る車両で親睦会。ご家族参加が毎年いらっしゃいます。お子様も元気#^^
この列車が初めての同窓会参加の方も多かったのも印象的でした。とにかく何やら楽しいのです(#^^#)
奮ってのご参加お待ちしております



今年は音曲も予定！ 世界に誇る話芸、笑いあり涙あり 「落語」を味わって下さい！

恒例！始まりますと引き込まれ、笑い、ときどき、ほろりと涙。二笑亭ちゃん平師匠とお仲間のまさに寄席を実現しております。

今年は、昭和歌謡・音曲の芸もご用意しております♪
芸の素晴らしさで、大笑い。そのまま忘年会へ流れ込み、笑って納めて、新年会は笑ってこと始め。
はじめは抵抗あるものの、聞いてみると予想外に楽しく落語の魅力にはまった貴兄も多かったのが印象的。**忘年会、今年は12月14日開催**です。

来年の**新年会**は、**2月8日**を予定しております。
奮ってのご参加お待ちしております。
お知らせは、メルマガ等で！



第7回勝田高等学校同窓会主催 フォトコンテスト開催します！

恒例！フォトコンテスト。今年はIOC/オリンピック公式カメラマン長屋氏を招聘予定。在校生だけではなく、同窓生を含めて楽しめる企画です。

開催は、芸術の秋でございます。メルマガ等でお知らせします。是非お越し下さい！

今回は、コンパクトデジタルカメラ、一眼レフなども含めより高度な技を競って頂けるものと期待です。



お知らせ

ウダーベ音楽祭、お陰様で成功！

勝田高等学校同窓会主催

ひたちなか市制施行25周年記念事業

■開催趣旨・コンセプト

常陸大宮市の市制施行10周年で開催された「ウダーベ音楽祭」です。市全体で、老若男女が参加できて、なおかつ各地域の特徴が出せて、さらに市民が一体感を感じられて、楽しいイベント。自分の出身の小学校の校歌を大会場の舞台上で歌おう(うだべ)、というもの。

本年2月3日、ひたちなか文化会館にて、大谷明ひたちなか市長、野沢恵子教育長もお招きし、市民が、地域を強烈に意識しながら、ひたちなか市の誕生25周年をお祝いする企画。20校全部がご参加いただきました！

お盆明けより約半年。いろいろございましたが、地域の皆さま、自治会、学校関連など様々な団体様、実行委員のみなさまのお力をいっぱいお借りしまして、ととてもとお世話になりながら漕ぎ着けました。

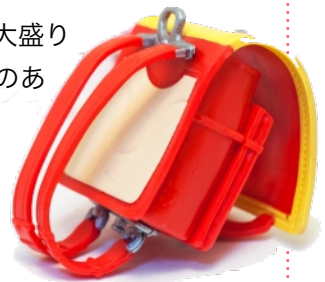
多くの趣向、地域の団結、素晴らしい練習の成果、開催日当日に急遽参戦したチームなど作業の合間に垣間見る舞台はとっても楽しいものでした。

ご参加の皆さんには、舞台上で唄うのを嫌がっていたのに、唄い終るとみんな大喜びで笑顔一杯、そしてみんな「とっても楽しかった」と目を輝かせて下さり、こんなにも歌は、校歌は人を喜ばせるものなのかと、感心と発見、感動でした。

このウダーベ音楽祭は、唄うことも大事ですが、小学校単位で地域を意識していただく、そして心の底に誰もが持っている望郷の想いの原点とも言える小学校の「校歌」を唄うことで、新たな地域の和を多くの世代で共有していただきたいと言うのが大きな狙いであり願いです。

当日は会場内に入らずロビーで大盛り上がり、大騒ぎでした。ウダーベのあるべき姿です。

第2回の声も少なからずあるようです。次回はどんな形になるでしょうか・・・乞うご期待ですね



ウダーベ音楽祭inひたちなか
実行委員長 佐藤 久彰(13回生)
(市毛小学校卒業)

茨城新聞 2019/02/05

老若男女で校歌を合唱した＝ひたちなか市青葉町



世代超え校歌歌うべよ ひたちなか

市内小学校OBら 母校の校歌を合唱する「ウダーベ音楽祭inひたちなか」が3日、ひたちなか市青葉町の市文化会館で開催され、市内の全小学校20校の卒業生や保護者らが世代を超えて歌い、懐かしんだ。

市制施行25周年を記念して、市内の県立勝田高校同窓会を中心とした実行委員会が主催した。常陸大宮市でも同じイベントを過去に開催しており、参考にした。イベント名は茨城弁の「歌うべよ」が由来。

市内の小学校全20校が参加し、現役児童から保護者、卒業生、地域住民など老若男女で構成された。各チームは自校の歴史や自慢を披露した後、校歌を合唱。伴奏者や指揮者を付けた、吹奏楽の演奏ほか、甲子園の勝利校の校歌斉唱をまねるなど、工夫を凝らしていた。

那珂湊第一小チームで参加した栗田千恵子さん(71)は子どもたちが同校卒業生であり、「入学式や卒業式で校歌を歌ったことを思い出し、懐かしくなった」と話した。(斎藤明成)

2018年(市制30年)12月20日(木曜日)

茨城新聞

小学校校歌歌おう

ひたちなか 20校 みんな一緒に

市制25周年 来年2月3日に音楽祭

各校にチーム 深まる交流、参加しよう！

「ウダーベ音楽祭」は、市内20小学校の卒業生や保護者らが、母校の校歌を合唱するイベント。今年で市制25周年を迎える。各校の歴史や自慢を披露した後、校歌を合唱。伴奏者や指揮者を付けた、吹奏楽の演奏ほか、甲子園の勝利校の校歌斉唱をまねるなど、工夫を凝らしていた。

那珂湊第一小チームで参加した栗田千恵子さん(71)は子どもたちが同校卒業生であり、「入学式や卒業式で校歌を歌ったことを思い出し、懐かしくなった」と話した。(斎藤明成)

県内の天気

日 立 水 土 日

きょうの予報

降水確率 0% 0% 0% 0%

最高気温 最低気温

北風の風や強く東北の風



役員紹介

会 長	黒澤 敦 (5)
副会長	阿久津 隆男 (7)
	大谷 浩一郎 (9)
事務局	佐藤 久彰 (13)
	(事務局長)
	鈴木 道生 (26)
	二川 智之 (26) *
会 計	小池 光浩 (7)
監 査	太田 真理子 (13)
	国井 謙一 (13) *
常任幹事	鹿志村 武史 (5)
	佐藤 真人 (7)
	所 義弘 (7) *
	永井 清一 (8) *
	植野 健一 (10)
	平野 壺久 (11)
	萩谷 公康 (11)
	大内 浩 (11)
	大貫 但尚 (11)
	人見 孝 (13)
	鬼澤 豊孝 (13)
	黒澤 務 (13)
	俵 はるみ (13)
	藤谷 美幸 (13)
	中里 隆幸 (13)
	関谷 久美子 (13)
	高丸 誠司 (14)
	堀川 智也 (18)
	畠山 元気 (22)
	鈴木 達也 (22)
	大内 聖仁 (24)
	田中 優子 (25) *
	石田 拓郎 (26)
	高野 龍 (31)
	櫻井 瑤子 (41)
	門脇 梓 (42)
顧 問	永井 資郎 (1)
	(初代会長)
	柳田 尚久 (1)
	(前会長)
	大貫 裕治 (1)
	(前監査)
	野木 滋 (2)
	(前副会長)

会員寄稿

同窓会によせて

神野 泰司 (第6回生)



「普通高校としての勝田高校は閉校となります」
2月に発表された中等教育学校への改編について関心があつたので、寄稿を口実に久しぶりに訪れた母校で話を聞いて驚いた。

勝田高校は、日立一のような中学と高校の併設型ではなく、並木中等教育学校と同じ中高一貫課程となる。普通高校として2021年度まで募集を減らしながら存続。その3年後に幕を閉じる一方、2021年度には中等教育学校の前期課程1期生が入学し、新たな歴史を紡ぎだしていく。校舎をそのまま使用することは決まっているものの、打ち出す特色や募集、設備、部活動など課題は山積している。校名に「勝田」の名が残るかさえも今のところ不明だ。

広域合併で勝田市からひたちなか市へと変わっても母校は母校だった。この改編を生まれ変わりと捉えるか、それとも今後は思い出だけを抛りどころにするのか。母校愛の薄い卒業生とはいえ、心がざわついている。

今どきの若い者へ

永井 清一 (第8回生／ラグビー部)



若い卒業生は、様々なことにチャレンジし夢の途中であり、同窓会の活動には興味が無くて当然だと思います。

愚息も勝田高校を卒業し大学3年生ですが、同窓会には全く興味がありません。私も同窓会に参加するようになったのは2年ほど前からで、東京に赴任していた時に私的なことでトラブルがあり自暴自棄になっていました。そんな時に東京都在住の同窓生からの誘いで勝田高校同窓会東京支部のイベントに参加し、年代を越えた方々と出会い、話をするうちに一人ボッチじゃないと思えるようになりました。今は勝田高校の同窓生に感謝しています。

勝田高校の卒業生は47期、1万人を超え多く同窓生が全国で頑張っています。何を考えているのかわからない今どきの若い者も同窓会へ参加し、更に何を考えているのかわからない年寄りに刺激を与えてください。年を取ると後輩の活躍を嬉しく思い応援したくなるものです。もう一度、今どきの若い者は何を考えているんだかと言われたい8期生より。

同窓会によせて

井原 鏡子 (第9回生)



第7回同窓会定例総会の開催おめでとうございます。私が勝田高校を卒業してからは30年以上経ちますが、卒業以来茨城を離れて神奈川で暮らしており、高校時代の友人とはほんの数人とししか連絡を取っていませんでした。

が、数年前に同級会、そして東京支部会が開催されそれに参加したことで、先輩方・後輩たち勿論同級生もですが、学年の枠

会員寄稿

を超えて仲良くして頂ける同窓生と出会えました。

同窓生というだけで、初めまして方もまるで昔からの知り合いのように屈託なく話して笑って遊んで…、本当に楽しい時間を共有させてもらっておりとても嬉しく思っています。

総会や支部会のお知らせが来て、「どうせ行っても…」なんて思っている方がいらしたとしたら、是非是非ご参加してみてください。勝田高校同窓会でまた新たな繋がりが出来ること間違いなしです！！

一歩踏み出すことで、人生が変化する。

鈴木 達也（第22回生／バスケットボール部）
（株）鈴木建装 代表取締役

当時、理系だった私は本当に勉強が苦手なことで特に物理のテストなどこれまでにやったことがないほどの赤点だったことを今でも思い出します。勉強に対する熱がまったくなく大学受験にも当然失敗。浪人しても失敗。

しかし高校から始めたバスケットボールは今でも沢山の仲間とふれあい楽しみ、さらにミニバスをやっている息子に教えたりと人生の楽しみの一つとなっております。

4年前勝田高校の同窓会にはじめて参加し、年齢がひとまわり以上違う先輩経営者とお会いしたことがきっかけで、近年父が経営していた建設業の仕事をスムーズに事業承継することができました。

当時は、社員を雇用する必要はない家族だけで細々やっていたのが一番安定して良い。そんな弱気なことを考えていた自分が、今では10年後社員10人、売り上げは3倍。最高の仲間と最高の人生を贈ることが私達の幸せなど、ビジョンや想いを明確にすることができるようになりました。

一歩踏み出したり何かに挑戦することで、新たな人脈につながり自身がさらに成長できるチャンスを頂くことができる。人と人のご縁の大切さを、同窓会を通して学ぶことができたことに感謝致します。

高校時代から今の自分

畠山 元気（第22回生／陸上部長距離走）

陸上部へ入部したのは25年前。際立って優秀な成績も残せませんでしたが、その経験は今の糧となっております。当時は



先輩・同級生・後輩と走る仲間がいましたが、卒業後は走る仲間もいなかったのでも走るのはやめてしまいました。その後、仲間に誘われ30歳で初めて勝田マラソンを走り、それ以来マラソン漬けの日々を送っています。今では山を走るトレイルランニングもはじめました。

仕事の方は、30歳の時に地元ひたちなか市で花屋をはじめました。今では勝田マラソンヘビクトリーブーケを納める仕事もしています。1歩ずつ足を前に進め、道に迷ったら元の道に戻るという山登りの基本をもとに、多くの皆様へ元気を届けられるよう、地元根差したお店になるように日々努力しています。

勝田高校同窓会という同じカテゴリーで登山などの交流会も開催してみたいです。マラソン・トレラン仲間も募集しています。たくさんの同窓生と交流しながら勝田高校同窓会をより一層活性化させていきたいです。同窓会のさらなるご発展と母校のご活躍を心から祈念いたします。

同窓会に寄せて

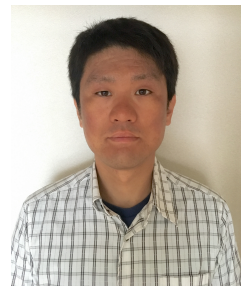
二川 智之（第26回生）

第7回同窓会開催おめでとうございます。勉強の成績は平々凡々、生徒会にも部活動にも所属しておらず、とくに目立った功績を残していない私が、こうして同窓会会報のあいさつ文を書いているというのは少し不思議な気持ちになります。これもひとえに同窓会の皆様のおかげであり、この場を借りてお礼申し上げます。

卒業してから一昨年まで、同窓会に携わることがありませんでしたが、卒業生のネットワークの広さ、絆の深さに驚きました。勝田高校の様に、大きな規模で活発に活動している同窓会はそうは無いでしょう。

今年2月に行われたウダーベ音楽祭に実行委員として参加させて頂きました。音楽祭は大成功でしたが、同窓会ネットワークの広さがイベント成功の大きな要因となったのは間違いありません。学校の枠を超え、地域のコミュニケーションに大きく貢献した素晴らしいイベントでした。

今後も様々な形でイベントに参加し、私自身がイベントを盛り上げるようになれるようになっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。





★同窓会に参加しよう！

- 1) イベントや事業のお誘いは、→のQRコードからメールアドレスやお名前などの登録をお願いします。
- 2) 役員会に参加しよう。役員会では、事業の計画・予算の執行・委員会の設置をし、顔の見える形で運営されています。

現在、同窓会では、若い方々のご意見を渴望しております。是非とも、お力を貸して下さい。

案内は、先ほどのメール、勝田高等学校F B支部、公式ホームページで案内します。

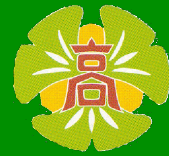


1 回生同期会 2018年夏・テラスザガーデン水戸

●編集後記：今年はなにやら世間様が賑やかですね。元号が変わって、国政選挙等々。私事ですが、今年大台。五十にして天命を知る、と孔子様は仰っておりますが、ナカナカそうは問屋が卸しません。とは言え、今年は正月に本を300冊以上捨て、仕事の書類もガッツリと、20年以上続いた事業も止したり、数年続いた地域のイベントも。捨てたり止すまではあれこれ思うものですが、捨てるとサッパリ爽快。あれもこれもと欲張ったり、がんばってもなんだか身体もなにも追いつかないものです。
「止まれば聞こえる見えてくる」ってどこぞの名僧が言ってましたが、止まるためにも欲張らずに整理は必要かも、そんなことを半期を境にツラツラ想ってます(さ)

勝田高等学校 同窓会

検索



校歌

田口五郎：作詞

臼井英男：作曲

筑波の峯の空青く
白雲あわく よぎるとき
ああたさきの 学舎に
伸びゆくいのち
われら ひらかん

旭日高き 東海に
熱砂をかたく ふみしめて
おお建学の 意気高く
限りあるみの
ちから ためさん

那珂の流れに 波さわぎ
暗雲ふかく とぞす日も
いざともがらよ 手をとって
明日の郷土を
ともに になわん



茨城県立勝田高等学校同窓会

<http://katsuta-ob.org>

info@katsuta-ob.org

2019年7月吉日発行

発行責任者 黒澤 敦(5期)

■編集／構成／デザイン
佐藤 久彰(13期)